

授業科目名	クリティカルケア看護実習Ⅱ <i>Practicum in Critical Care Nursing II</i>		担当教員	山勢 善江、濱元 淳子	
開講年次	2年通年	セメスター	3・4	時間数(単位数)	225 (5)
必修選択	専攻領域必修	授業形態	実習	使用教室	
授業の目的	救急患者とその家族に対する高度で専門的な看護実践能力を獲得するとともに、専門看護師の役割である実践、相談、調整、倫理調整、および教育のための基礎的能力を養う				
到達目標	1. 救急患者の状態を専門的に判断し、適切な臨床推論のもと看護ケアを提供することができる。 1) 救急患者の緊急度・重症度を判断できる。 2) 救急患者の身体的問題に対する苦痛緩和を図ることができる。 3) 救急患者や家族の心理・社会的問題に対し、効果的に看護介入することができる。 2. 救急患者や家族の尊厳を守り、倫理的な問題に対応できる 3. 看護師の学習上のニーズを分析し、教育計画を立案して指導することができる。 4. 看護師からの患者ケアに対する相談に対し、コンサルテーションを実施できる。 5. チーム医療におけるコーディネーターとしての役割を認識し、実践できる。 6. 自己の看護を評価し、今後の課題を明らかにできる。				
授業計画	1. 実習場所 ・熊本赤十字病院 総合救命救急センター ・徳島赤十字病院 高度救命救急センター 2. 実習内容 ・救命救急センターに搬送され、呼吸・循環・代謝管理が必要な患者を受け持ち、看護ケアを提供する ・救命救急センターでは、可能な限りポスト・クリティカル期または急性期リハビリテーションケアを受ける患者への看護実践も経験する ・救急外来での院内トリアージを行う ・受け持ち患者に対する看護計画をカンファレンスで発表し、指導看護師の助言を受け、より適切な看護ケアを提供する ・到達目標の達成に向け、専門看護師のスーパーバイズを受けながらコンサルテーションや倫理調整を行う ・自己の実践内容を評価し、文献的知見も含めて考察する				
学習方法	クリティカルケア看護特論Ⅰ～Ⅲ、クリティカルケア看護演習Ⅰ～Ⅳ、および共通科目での学びを十分に復習したうえで、実習に臨む必要がある。また実習終了後は、受け持った全ケースの看護展開を再検討し、実習終了後の発表会において成果を報告できるよう準備する。担当教員によるスーパーバイズを週に1回以上受けながら実習を展開していく。その他、注意事項などは実習要項を参照すること。				
オフィスアワー	金曜日の昼休みもしくはメールでのアポイントメントをとってください 山勢：y-yamase@jrckicn.ac.jp 濱元：j-hamamoto@jrckicn.ac.jp				
テキスト	クリティカルケア看護特論Ⅰ～Ⅲ、クリティカルケア看護演習Ⅰ～Ⅳ、および共通科目で配布された資料				
参考文献	クリティカルケア看護特論Ⅰ～Ⅲ、クリティカルケア看護演習Ⅰ～Ⅳ、および共通科目で紹介された資料				
評価方法	看護実践内容 (25%) 実習記録 (25%) 実習中のカンファレンスや実習後の発表会でのプレゼンテーション内容 (50%)				